

名言集	<p>「勉強するから、何をしたいか分かる。勉強しないから、何をしたいか分からない。」(北野 武)</p> <p>「人を気持ちよくさせる方法ってたくさんあるけど、挨拶ってその中の一つだよな。」(北野 武)</p> <p>「最高傑作はいつだって、次の作品だ。」(北野 武)</p> <p>「今この瞬間から別の行動を起こせば、未来は変わっていく。」(北野 武)</p>
-----	---

私たち教育者が目指すのは、授業による児童の変容 (2024年6月17日 4年3組での指導記録)

この日の前日、4年3組の子供たちの様子を見るために、授業を少し観察した際、姿勢の悪さが気になりました。そこで水曜日の8時30分から45分の15分間、特別授業をすることにしました。

T「この中で、バカになりたい人？」

C 一人も手をあげない。

T「では、頭が良くなりたい人？」

C ほとんどの子が手をあげる。

T「今日は簡単に頭が良くなる方法を教えに来ました。この地球には、人間以外にもとても頭の良い動物がいます。」

I さん「イルカ。」とつぶやく。

T「おー、誰かな？イルカって言ったのは。」

I さん、手をあげる。

T「すごいね、その通りです。まだ話もしていないのに分かるなんて素晴らしい！」

I さん、表情が変わる。その後、姿勢よく、集中して授業に参加する。

T「イルカの体と比べた脳の大きさは、人間の体と比べた脳の大きさよりも大きいのです。でも、イルカには人間のような能力を発揮することができません。なぜだと思いますか。」

I さん「体の形がちがう。」

C「手の指がない。」「足がない。」

T「その通りです。イルカの体の形だと、水面ジャンプは3mとか飛べるし、泳ぐのも速いけれど、人間のように言葉を話したり、文字を書いたりはできません。同じように頭の良い動物がいます。この動物です。」



C「ゾウだ!」「ゾウって頭いいんだ。」

T「ゾウは家族生活をしますし、人間の言うこともよく理解します。」

C「でも、鼻しか使えない。」「足で踏みしめたりできるよ。」

T「でも、こういう体をしているから、勉強することはできないのです。もっと頭の良い動物もいます。」

K さん「チンパンジーだよ。」

T「え～！また分かってしまったの?!君たちすごいね。予想して答えるのも人間にしかできないよね。」(写真提示)

T「このチンパンジーいちおう、新聞を見ているけど、読めてはいないよね。それにしても、かなり姿勢が悪いと思わない？」

C「ああ、確かに。」「ひどい姿勢だね。」

T「チンパンジーに学ぶ能力が育たなかったのは、姿勢も関係するかもしれないね。」

T「では、人間ではどうでしょう。次の絵を見てください。」



T 「何の絵でしょうね。」

C 「人類の進化の絵です。」

T 「そうです。本でよく見ますよね。まずはさっきのチンパンジーのようなところからスタートします。

440万年前、人間が立ち上がると、脳の大きさは350CC、ちょうどジュースのボトルくらいになります。

300万年前、もう少し姿勢がよくなると、脳は430CCと増えました。

次に手に石のナイフのようなものを持っていますね。道具を使い始めた頃です。脳は600CC。どうですか。」

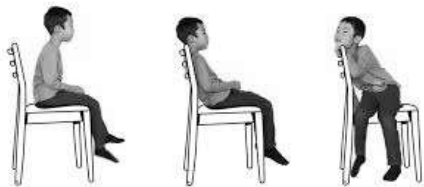
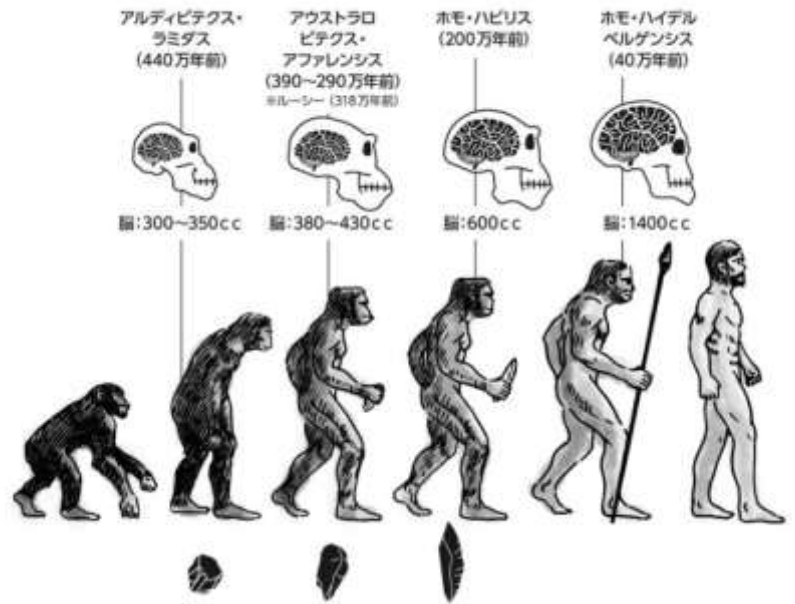
C 「2倍くらいに増えています。」

T 「で、40万年前、やりのような道具を使っています。脳は1400CCまで大きく進化しています。」

C 「えー!!!そんなに増えてきたんだ!!!」

T 「どうですか。姿勢が変わるだけで、脳に対する刺激が変わるから、こんなに脳の成長に影響があるんだよ。そこで、次の写真です。」

人類の進化と脳の大きさの変化



T 「ほら、こういう姿勢の人はいませんか。」

C ニヤニヤ

T 「右なんて、ぜったい勉強できないよね。」

C ずっとニヤニヤ笑っている。(つまり心が動いている。)

T 「真ん中も悪い姿勢だよ。」

T 「このように姿勢を意識するだけで、脳を良い方に刺激するか、悪い方に刺激するか、だいぶ影響があるんだね。人間の脳はしわがたくさんある方が、頭が良くなるんだよ。そのしわを増やすためには、よい姿勢を意識して勉強することが大事なんだね。皆さんがこのことを忘れないで、良い姿勢を意識するだけで、皆さんの10年後、20歳になった時の姿、自分の可能性が変わりますよ。」

C 納得顔でこちらを見ている。

T 「今日は15分間、姿勢の勉強を受けてくれてありがとう。それでは授業を終わります。」

【指導のポイント】

- ①頭が良くなる方法という、子供のモチベーションを高める導入のひと言で授業に入る。
- ②子供の既成知識を引き出しながら、対話型で進行する。子供が思わずつぶやいたキーワードを拾う。
- ③効果的視覚資料の提示をする。
- ④同一パターンで何回か進むため、子供が次のことを予想しやすい。
- ⑤脳の容積の変化という「数値情報」を入れると理解しやすくなる。
- ⑥未来の輝く自分たちの姿を夢見させる言葉かけをする。
- ⑦この後に指導するとしたら、良い行動化をする子供を認めて紹介していく。「承認欲求」を満たすことが大事。